

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科 教育課程

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
看護の展開			30				1	30	◎
基礎看護技術Ⅰ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅱ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅲ		30					1	30	◎
基礎看護技術Ⅳ		30					1	30	◎
基礎看護技術演習Ⅰ	45						1	45	◎
基礎看護技術演習Ⅱ		45					1	45	◎
看護研究			30				1	30	◎
看護研究演習						15	1	15	◎
成人看護学									
成人看護学概論		15					1	15	◎
成人看護方法論Ⅰ（急性期）			30				1	30	◎
成人看護方法論Ⅱ回復期（セルフケアの再獲得）				30			1	30	◎
老年看護学									
老年看護学概論		15					1	15	◎
老年看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	◎
老年看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
老年看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
母性看護学									
母性看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
精神看護学									
精神看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
小計	105	135	120	135	0	15	19	510	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の展開 (実務経験のある教員等による授業科目)	坂本 洋子	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護過程についての講義と事例を用いた演習を実施し、発表により学生間で意見交換を行う。

◇到達目標

- 1、看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）の意味と方法を説明することができる。
- 2、ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして活用し、系統的に情報収集し、アセスメントし、看護上の問題点を抽出することが出来る。
- 3、アセスメントに基づいた看護計画の立案が出来る。
- 4、看護計画の評価の視点を理解し、説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程とは何か。看護過程の構成要素	講義	
第2回	アセスメント（情報収集と分析）	講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターンの理論的背景	講義	
第4回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析の視点	講義	
第5回	情報の分類・整理、解釈・分析、看護問題の抽出方法と関連図	講義・演習	
第6回	看護診断（1）看護診断とは。看護診断の記述法。	講義	
第7回	看護診断（2）解釈から看護診断をつけるまでの方法	講義	
第8回	看護診断（3）関連図を用いた看護診断の統合	講義・演習	
第9回	看護診断の優先順位と看護計画の目的と概要	講義	
第10回	看護目標（成果）と看護計画の具体的な立案方法	講義	
第11回	事例展開演習	講義・演習	
第12回	看護計画の実施前の準備や実施上の注意点と看護記録の書き方	講義	
第13回	看護計画の発表	演習	
第14回	看護計画の発表	演習	

令和5年度 看護学科 シラバス

第15回	看護計画を評価する目的と方法・終講試験	講義・試験	
------	---------------------	-------	--

評価方法	☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座，専門Ⅱ基礎看護技術 I 医学書院
参考図書	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	講義後、講義内で提示した課題に取り組む（60分）適宜、講義前に提出を指示します。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術 I コミュニケーション・記録報告 環境調整・感染予防・安全管理 (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉由美・矢追裕子・水田あき・阪本由美	1	1	前期	必修

◇講義概要

対象者の生活環境を整える技術を習得する

◇到達目標

1. 療養生活の中で、対象の生活スタイルに配慮し、室内の気候、空気の清浄性やにおいて、光・音などの環境条件を整えることの必要性和看護の役割が理解できる 2. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる 3. 看護記録の目的と留意点、その構成が理解できる 4. 医療現場における「報告・連絡・相談」の重要性を理解できる 5. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行う重要性を理解できる 6. 標準予防策・感染経路別予防策の必要性和方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当者
第1回	環境調整①：療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整	講義	矢追 裕子
第2回	環境調整②：ベッド周囲の環境整備	講義	矢追 裕子
第3回	環境調整③：シーツのたたみ方・ベッドメイキング	講義	矢追 裕子
第4回	環境調整④：リネン交換	講義	矢追 裕子
第5回	コミュニケーション技術①	講義	稲葉 由美
第6回	コミュニケーション技術②	講義・GW	稲葉 由美
第7回	コミュニケーション技術③	講義・GW	稲葉 由美
第8回	感染予防に関する技術①：感染防止の基礎知識・標準予防策	講義	稲葉 由美
第9回	感染予防に関する技術②：感染経路別予防策	講義	稲葉 由美
第10回	感染予防に関する技術③：洗浄・消毒・滅菌	講義	稲葉 由美
第11回	感染予防に関する技術④：感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策	講義	稲葉 由美
第12回	看護にかかわる記録・報告①：看護記録とは・記録、管理における留意点・看護記録の構成	講義・GW	水田 あき
第13回	看護にかかわる記録・報告②：報告	講義・GW	水田 あき
第14回	安全を守る技術	講義・GW	阪本 由美
第15回	試験 (60 分)・まとめ (30 分)	講義・試験	稲葉 由美

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んでくること（予習30分）。講義後は、該当部分の基礎・臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。（復習60分）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	山本 桂・矢追裕子・花田匡子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間の基本的欲求に基づく日常生活活動への援助技術を知り、基本的技術を修得する。

◇到達目標

- 1、生活において姿勢を保ち活動を整える意義と効果的な援助のための看護技術が理解できる
- 2、睡眠・休息の意義と必要性、安楽・安眠への援助技術が理解できる
- 3、清潔・衣生活の意義と対象の健康状態に合わせた援助技術が理解できる
- 4、排泄の意義と、ニーズに応じた援助方法の選択および看護技術が理解できる
- 5、食事と栄養の意義と必要性、ニーズに応じた援助技術が理解できる
- 6、電法・マッサージ・部分浴の意義・目的と、健康状態に合わせた援助技術が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	「活動」基本的活動の援助（体位、体位変換）	講義	山本 桂
第2回	「姿勢・体位・活動」体位保持、移動・移乗・移送	講義	山本 桂
第3回	「睡眠・休息」睡眠と休息の援助	講義	山本 桂
第4回	「循環（電法）」体温管理の技術、末梢循環促進のためのケア	講義	山本 桂
第5回	「食事と栄養」①食事援助の基礎知識	講義	山本 桂
第6回	「食事と栄養」②食事介助、摂食・嚥下訓練・口腔ケア	講義	山本 桂
第7回	「食事と栄養」③非経口栄養摂取の援助	講義	山本 桂
第8回	「清潔・衣生活」① 清潔の基礎知識と清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	花田 匡子
第9回	「清潔・衣生活」②病床での衣生活の援助	講義	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」③ 入浴・シャワー浴・全身清拭 部分浴（足浴・手浴）	講義	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」④洗髪・整容	講義	花田 匡子
第12回	「排泄」①自然排尿及び自然排便の基礎技術と介助の実際	講義	矢追 裕子
第13回	「排泄」②導尿（一時的導尿・持続的導尿）	講義	矢追 裕子
第14回	「排泄」③排便を促す援助（浣腸・摘便）、ストーマケア	講義	矢追 裕子
第15回	試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	山本 桂

評価方法	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 根拠と自己防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んでもくること（予習30分）。講義後は、該当部分の基礎・

令和5年度 看護学科 シラバス

	臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習 60 分)
--	---

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅲ 与薬・包帯法・創傷管理・輸血・呼吸・診察・検査 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本桂・水田あき	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

診察・検査時の対象に応じた援助の基礎と、医療処置における看護の役割と具体的な方法を学ぶ

◇到達目標

1、診察と検査の目的がわかり、診察、検査を受ける対象への看護技術が理解できる
2、輸血・与薬の目的と意義を理解し、医療安全の視点から安全に実施するための方法と、実施時のアセスメントの視点が理解できる
3、酸素療法・吸引・吸入の意義・目的を理解し、対象に応じた看護の役割とアセスメントの視点を考えることができる
4、包帯法・創傷管理の意義・目的がわかり、看護の必要性が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸：酸素吸入療法	講義	矢追裕子
第2回	呼吸：吸引（一時的吸引・持続的吸引）	講義	矢追裕子
第3回	呼吸：排痰ケア・吸入・人工呼吸療法	講義	矢追裕子
第4回	診察・検査： 検体検査	講義	水田あき
第5回	診察・検査：生体情報のモニタリング	講義	水田あき
第6回	診察・検査：診察・検査・処置の介助技術、採血	講義	水田あき
第7回	与薬：与薬の基礎知識、薬物療法の意義、看護師の役割	講義	山本桂
第8回	与薬：経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助方法	講義	山本桂
第9回	与薬：注射の基礎知識と援助方法① 皮下注射・筋肉注射・皮内注射	講義	山本桂
第10回	与薬：注射の基礎知識と援助方法② 静脈内注射・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義	山本桂
第11回	輸血：輸血の意義・目的・種類・副作用・保存・投与	講義	矢追裕子
第12回	包帯法と創傷の管理：創傷管理の基礎知識	講義	矢追裕子
第13回	包帯法と創傷の管理：包帯法、創傷処置	講義	矢追裕子
第14回	包帯法と創傷の管理：褥創予防（褥創発生のメカニズム）	講義	矢追裕子
第15回	終講試験（45分）まとめ（45分）	試験・ まとめ	山本 桂

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	適宜 DVD などを使用します
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅳ バイタルサイン・フィジカルアセスメント・救命救急処置・死亡時の看護 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・矢追裕子・加藤若葉	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

対象の健康段階に応じて、的確な観察力や判断力が速やかに看護に活かせる技術の基本的知識を学ぶ

◇到達目標

1. 生命機能の正常と異常を知り、異常の早期発見のアセスメント視点を考えることができる。
2. 生命の危機状態にある対象の特徴を知り、状況に応じた看護技術の必要性が理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	バイタルサインとは	講義	水田あき
第2回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍）	講義	水田あき
第3回	バイタルサインの観察技術（呼吸・血圧）	講義	水田あき
第4回	バイタルサインの観察技術（血圧・意識）	講義	水田あき
第5回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍・呼吸・血圧）	講義	水田あき
第6回	フィジカルアセスメント①脳・脳神経	講義	加藤若葉
第7回	フィジカルアセスメント②筋・骨格系・乳房・生殖器	講義	加藤若葉
第8回	フィジカルアセスメント③肺（呼吸器系）・胸部	講義	加藤若葉
第9回	フィジカルアセスメント④肺（呼吸器系）・胸部	講義	矢追裕子
第10回	フィジカルアセスメント⑤心臓・循環器系	講義	矢追裕子
第11回	フィジカルアセスメント⑥腹部・消化器系・直腸・肛門	講義	矢追裕子
第12回	救急救命処置①一次、二次救急	講義	加藤若葉
第13回	救急救命処置②三次救急	講義	加藤若葉
第14回	死亡時の看護	講義	水田あき
第15回	終講試験（45分）・まとめ（45分）	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メディカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉由美・山本桂・矢追裕子・花田匡子	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎看護技術を実際に行い、安全性と安楽に考慮した手順を考える能力を修得する

◇到達目標

- 1、安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる
- 2、対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「コミュニケーション技術」	演習	稲葉 由美
第2回	「感染予防策・記録報告」①手指衛生、個人防護用具	演習	稲葉 由美
第3回	「感染予防策・記録報告」②無菌操作	演習	稲葉 由美
第4回	「環境調整」ベッドメイキング	演習	矢追 裕子
第5回	「活動・体位・姿勢」①体位、臥床時の体位変換	演習	山本 桂
第6回	「活動・体位・姿勢」②ベッドから車椅子の移乗・移送	演習	山本 桂
第7回	③ベッドからストレッチャーへの移乗・移送	演習	山本 桂
第8回	「休息・睡眠」睡眠・休息を促す援助、体位保持（ポジショニング）	演習	山本 桂
第9回	「清潔・衣生活」洗髪①	演習	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」洗髪②	演習	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換①	演習	花田 匡子
第12回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換②	演習	花田 匡子
第13回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換③	演習	花田 匡子
第14回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換④	演習	花田 匡子
第15回	「排泄」①床上排泄援助（尿器、便器）、オムツ交換	演習	矢追 裕子
第16回	「排泄」②一時的導尿援助と持続的導尿援助の実際	演習	矢追 裕子
第17回	「排泄」③グリセリン浣腸、摘便 ④ストーマケアの援助	演習	矢追 裕子
第18回	「食事と栄養」①食事援助	演習	山本 桂
第19回	「食事と栄養」②口腔ケア・嚥下訓練	演習	山本 桂
第20回	「食事と栄養」③経鼻胃チューブの管理・経管栄養法	演習	山本 桂
第21回	「循環（電法）」温電法、冷電法、マッサージ	演習	山本 桂
第22回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子
第23回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子

評価方法	☐ 定期試験（ %）■実技試験（ 100 %）「リネン交換」で50%、「全身清拭と寝衣交換」で各50% ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他
------	---

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院. 基礎・臨床 看護技術 医学書院 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと。 「リネン交換」「全身清拭と寝衣交換」の技術試験は各々の試験で6割以上の評価を受けることをもって合格とする。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・加茂清美・矢追裕子・ 阪本由美・山本 桂・加藤若葉・中西信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護技術の基礎的理論や特質を理解し、疾病・障害をもつ対象に応じた日常生活動作の基本的な援助技術を習得する。

◇到達目標

1. 安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる。
2. 対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	バイタルサイン測定①体温・脈拍・呼吸・血圧	演習	水田あき
第2回	バイタルサイン測定②体温測定から報告まで	演習	水田あき
第3回	呼吸：吸引・吸入・酸素療法・体位ドレナージ	演習	矢追裕子
第4回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル①	演習	山本桂
第5回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル②	演習	山本桂
第6回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理③	演習	山本桂
第7回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理④	演習	山本桂
第8回	検査：採血（シュミレーター使用）	演習	水田あき
第9回	包帯法・創傷の管理	演習	矢追裕子
第10回	フィジカルアセスメント①腹部・消化器系・直腸・肛門	演習	加藤若葉
第11回	フィジカルアセスメント②筋・骨格系 ③脳神経系	演習	加藤若葉
第12回	フィジカルアセスメント④肺（呼吸器系）・胸部	演習	矢追裕子
第13回	フィジカルアセスメント⑤心臓・循環器系	演習	矢追裕子
第14回	フィジカルアセスメント⑥乳房・生殖器	演習	矢追裕子
第15回	救命救急処置①一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第16回	救命救急処置②一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第17回	救命救急処置③一次救急処置（小児・乳児の心肺蘇生法）	演習	中西信之
第18回	救命救急処置④一次救急処置 技術試験	演習	中西信之
第19回	救命救急処置④止血法・気道異物除去・その他（45分）	演習	加藤若葉
第20回	救命救急処置⑤二次救急処置（急変時の対応・挿管介助）	演習	加藤若葉
第21回	死亡時の看護	演習	水田あき
第22回	バイタルサイン測定③ 技術試験	実技試験	水田あき
第23回	バイタルサイン測定④ 技術試験	実技試験	水田あき

令和5年度 看護学科 シラバス

評価方法	☐ 定期試験（ %） ■実技試験（ 50 %） ☐ 演習評価（ %）
	☐ 小テスト（ %） ■レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護研究の意義と必要性について理解する
2. 文献検索の方法を知り、実際にテーマに沿って検索できる
3. 研究のプロセスや研究デザイン、文献検討について理解する
4. 研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
5. 研究論文のまとめ方を理解する
6. ケーススタディの進め方を理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	看護研究とは	講義	
第2回	研究に必要な情報の探索と吟味（情報処理室）	演習	
第3回	文献検索・文献クリティーク	講義	
第4回	研究における倫理的配慮	講義	
第5回	研究デザインと方法	講義	
第6回	データ収集	講義	
第7回	データ分析・実際にインタビュー	講義・演習	
第8回	実際にデータ分析・まとめ	演習	
第9回	まとめ・発表・次の研究テーマを考える	演習	
第10回	文献の整理、質問紙の作成	演習	
第11回	データの収集・分析を実際に行う	演習	
第12回	研究成果をまとめる①	演習	
第13回	研究結果をまとめる②	演習	
第14回	研究結果を伝える（発表）	演習	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験/まとめ	

評価方法	☐ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	看護研究、医学書院、2022
参考図書	
留意事項	講義前には、教科書の該当ページを読んでおくこと。 講義後はレジュメとまとめプリントを学習すること。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	3	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護実践を振り返り、自分の課題について必要なポイントをふまえた研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
2. 倫理的配慮を考えることができる
3. 文献検討を行い多様な考え方を学ぶことができる
4. 研究のプロセスを理解することができる
5. 作成した研究計画に沿って課題を探究し、ケーススタディを作成できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	テーマの決定	講義	
第2回	関連文献の検索とクリティーク	演習	
第3回	研究計画の作成	演習	
第4回	ケーススタディの実施	演習	
第5回	ケーススタディの実施	演習	
第6回	ケーススタディの実施	演習	
第7回	発表スライドの作成のポイント	講義・演習	
第8回	発表原稿の作成（45分）	講義・演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	看護研究、医学書院、2021
参考図書	松本、森田編、看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、講談社、2015 高橋監修、看護学生のためのケーススタディ、メヂカルフレンド社、2016
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	加茂 清美	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

成人期の人々の発達における特徴とその課題、健康上の要求を理解し、健康に影響する環境の諸因子および疾病などを学習し、個人とその家族の健康上の問題解決に必要な看護の方法と実践力を修得する。
--

◇到達目標

1. 成人期にある人々を発達段階、健康と生活・社会・環境の視点から理解する。
2. 成人に対する看護アプローチの基本として、アンドラゴジー・人間関係・集団力学・看護倫理・意思決定・家族支援を理解する。
3. 成人の健康レベルに対応した看護の基本について理解する。
4. 成人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	成人期にある人の理解 1) ライフサイクルにおける成人期 2) 成人期の成長発達・発達課題	講義	
第2回	成人各期の特徴・健康問題	講義	
第3回	成人の生活	グループワーク（発表）	
第4回	健康を脅かす要因と看護 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 健康生活の破綻・障害の受容と生活	講義 動画視聴	レポート 提出
第5回	生活習慣に関連する健康問題と対策 ワークライフバランスに関連する健康問題と対策	講義	
第6回	成人の看護に有用な概念 ①アンドラゴジー ②エンパワメント ③病みの軌跡	講義	
第7回	④セルフケア ⑤危機 ⑥適応 ⑦自己効力	グループワーク（発表）	
第8回	まとめ（30分）・終講試験（60分）	講義・試験	

評価方法	■定期試験（ 80% ） □実技試験（ % ） □演習評価（ % ） □小テスト（ % ） ■レポート（ 20 % ） □その他（ % ）
------	--

教科書	系統看護学講座 成人看護学総論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	*課題に対する発表・レポートの提出と筆記試験があります。

令和 5 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護方法論Ⅰ（急性期） （実務経験のある教員等による授業科目）	加茂清美	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体的・心理的・社会的に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を学ぶ。また、治療に伴う患者や家族の痛み、苦痛を理解し、苦痛の緩和と危機状態からの脱するための援助のあり方を学ぶ

◇到達目標

1. 急性期にある対象の理解ができる。
2. 急性期にある患者の看護の役割と方法について理解できる。
3. 主要な急性期にある患者の看護が理解できる。
4. 重症患者のアセスメントのポイントがわかる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	急性期にある対象の特徴と概念 （急性期とは～看護援助に必要な概念）	講義	
第 2 回	急性期の看護活動	講義	
第 3 回	急性呼吸機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な呼吸機能障害のある患者の看護）	講義	
第 4 回	急性呼吸機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な呼吸機能障害のある患者の看護）	講義	
第 5 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の種類・病態生理、循環機能のアセスメント）	講義	
第 6 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の種類・病態生理、循環機能のアセスメント）	講義	
第 7 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の患者の看護）	演習（実習室）	
第 8 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の患者の看護）	演習（実習室）	
第 9 回	急性の栄養摂取・消化器機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護） 急性の生体防御機能障害・感染のある患者の看護 （基礎知識～代表的な生体防御機能障害・感染のある患者の看護）	講義	
第 10 回	急性の脳機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な脳機能障害のある患者の看護）	講義	
第 11 回	急性の排泄機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な排泄機能障害のある患者の看護）	演習	
第 12 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解） 個人ワーク	演習	

令和 5 年度 看護学科 シラバス

第 13 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解） グループワーク	演習	
第 14 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解） グループワーク発表	演習	
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	講義・試験	

評価方法	終講試験（ 90 %）・演習（ 個人課題 10% ） 小テスト（ 0%）
------	---

教科書	系統看護学講座 クリティカルケア看護学 医学書院
参考図書	
留意事項	授業は、教科書、資料を中心に行いますので、必ず持参してください 授業の内容を深めるにあたり、予習復習を行い講義に参加してください 実習室での演習は、事前課題と事後課題 2 つ提出があります。 レポートは返却するので、それらを活用して理解を深めること 事例に沿った看護演習に関しては、実習記録を使用して病態関連図を作成します 割りわてられた疾患に関する病態関連図を下調べすること（予習 60 分）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅱ 回復期（セルフマネジメント） （実務経験のある教員等による授業科目）	加藤 若葉	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

セルフケアの低下状態にある成人について理解し、セルフケアの再獲得を支援し、QOLの視点を踏まえた看護を習得する。

◇到達目標

1. リハビリテーション看護の考えと回復期の患者の看護援助を理解する。
2. 成人期にある患者及びその家族の特徴や健康問題の治療過程・回復過程を理解する。
3. 健康レベルに応じた援助を行うために必要な理論と方法を理解する。
4. 障害を受容し、QOLの獲得に向けた看護が理解できる。
5. 成人期にある患者と、家族看護のあり方、社会資源の活用方法が理解できる。
6. 退院支援を含めた継続看護について学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	アレルギー 膠原病 感染症疾患のある患者の看護（アレルギー、膠原病の概要、特徴～治療、症状・疾患の理解）	講義	
第2回	アレルギー 膠原病 感染症疾患のある患者の看護（感染症の症状・検査、診断～症状看護、感染予防）	講義	
第3回	リハビリテーションの考え方と回復期患者の看護援助の特徴 脳・神経疾患のある患者の看護（脳・神経の構造、機能、検査）	講義	
第4回	脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（前） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える ・まとめ問題配布	講義 グループワーク①	
第5回	脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（中） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える	講義 グループワーク②	
第6回	脳・神経疾患のある患者の看護（疾患の理解～患者の看護） 脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（後） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える	講義 グループワーク③	
第7回	血液・造血器疾患のある患者の看護（概要、特徴～治療の種類）	講義	
第8回	血液・造血器疾患のある患者の看護（経過別看護～血友病）	講義	小テスト (1)
第9回	運動器疾患のある患者の看護（運動器の構造、機能、診断と検査、運動器疾患の症状と病態）	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第10回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（前）	講義 グループワーク④	
第11回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（中）	講義 グループワーク⑤	
第12回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（後） ・まとめ問題配布	講義 グループワーク⑥	
第13回	内分泌・代謝疾患のある患者の看護（内分泌・代謝器官の構造と機能～疾患の病態生理）	講義	小テスト （2）
第14回	内分泌・代謝疾患のある患者の看護（検査、疾患の理解～看護）	講義	
第15回	終講試験（60分）・まとめ解説（30分：試験後に）	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（60％） ☐ 実技試験（ ） ☒ 演習（30％） ☒ 小テスト2回分（10％） ☐ レポート（ ） ☐ その他（ ）
------	---

教科書	*医学書院 系統看護学講座 成人看護学（血液・造血器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、内分泌・代謝、脳・神経）
参考図書	*医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 *ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 *看護診断ハンドブック *疾患別看護過程 医学書院
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。教科書を中心に講義を進めていきます。 *まとめ問題や演習の際に抗議のレジュメが必要です。毎回ファイリングして講義に持参すること。 *後期の授業ではグループワークの時間を多くとります。 ➡グループワークでは参加姿勢及び提出物について確認し、評価点に加えます。 *感染の事情により、グループワークが個人ワークになる可能性があります。 *進行に合わせた小テストを2回実施します。それも評価に加えます。 *終講試験後のまとめ解説の時間では、各回のレジュメと各回のまとめ問題での振り返りを行います。各自ファイリングしたものを必ず持参すること。 *事前学習：病態生理の復習をしっかりとってください。 *進行状況により、内容が変更になる場合があります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅰ - 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	前期	必修

◇講義概要

教育目的	加齢に伴う障害や疾病をもつ高齢者の生命維持・健康回復促進のための看護の基礎知識・技術を習得する。
授業概要	老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する。

◇到達目標

1. 高齢者の生活機能や生理的特徴を理解する。
2. 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾病に関連づけて学び、高齢者の QOL を高める具体的な看護の知識・技術を理解する。
3. 生活・療養の場における高齢者の看護を理解する。
4. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本的活動（転倒のアセスメントと看護）	講 義	
第2回	日常生活を支える基本的活動（廃用症候群のアセスメントと看護）	講 義	
第3回	食事・食生活と看護	講 義	
第4回	排泄と清潔の看護	講 義	
第5回	高齢者の生活リズムとコミュニケーション	講 義	
第6回	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護（発熱）	講 義	
第7回	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護（痛み・掻痒）	講 義	
第8回	症候のアセスメントと看護（脱水・浮腫・倦怠感）	講 義	
第9回	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄・認知症）	講 義	
第10回	治療を必要とする高齢者の看護（健康の維持と介護予防）	講 義	
第11回	治療を必要とする高齢者の看護（検査・手術・リハビリテーション） エンドオブライフケア	講 義	
第12回	生活・療養の場における看護（在宅高齢者への看護）	講 義	
第13回	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と医療安全・救命救急）	講 義	
第14回	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と災害）	講 義	
第15回	まとめ 終講テスト	講 義	

評価方法	☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ 10 %）
------	---

教科書	系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学、医学書院。 系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学 病態・疾患論、医学書院
参考図書	授業の中で、必要に応じて提示します
留意事項	授業前に該当範囲の予習（テキスト学習）30分をすること。授業後、レジュメ復習、小テストのやり直し（30分）をすること。小テストのやり直しは、適宜提出を指示する。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学方法論Ⅰ－Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する

◇到達目標

1. 高齢者の疾病・障害の特徴を理解する
2. 加齢変化と高齢者に多い疾患と治療を関連づけて学び、具体的看護の知識・技術を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老年看護に求められるものとは（高齢社会の現状・高齢者医療の現状）	講義	
第2回	高齢者の生理的特徴（老化と寿命・身体的変化）	講義	
第3回	老年症候群の特徴（各器官の生理的变化）	講義	
第4回	認知症の概念、症状と診断基準、治療について	講義	
第5回	高齢者のフィジカルアセスメント（CGAとは、方法と理解）	講義	
第6回	高齢者のフィジカルアセスメント（方法と注意点）	講義	
第7回	高齢者に起こる脳血管疾患（脳卒中のタイプと病態、治療）	講義	
第8回	高齢者に起こる脳血管疾患（パーキンソン病）うつ・せん妄	講義	
第9回	高齢者にみられる疾患の特徴（循環器）	講義	
第10回	高齢者にみられる疾患の特徴（呼吸器）	講義	
第11回	高齢者にみられる疾患の特徴（運動器）	講義	
第12回	高齢者にみられる疾患の特徴（皮膚疾患、眼科疾患）	講義	
第13回	高齢者にみられる疾患の特徴（耳鼻、歯、口腔・感染症）	講義	
第14回	高齢者と薬・高齢者のリハビリテーションについて	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 100% ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 演習評価（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ その他（ % ）
------	--

教科書	系統看護学講座：専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座：専門分野Ⅱ 老年看護 病態、疾患論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	＊教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 ＊授業の進行に合わせた小テストを適宜実施します。＊グループワークは適宜行います。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	坂本 洋子	2	1	後期	必修

◇講義概要

高齢者における看護過程の考え方を理解し、事例を用いて看護過程を展開し、高齢者を多方面から理解・把握し、看護を行うことができる能力を習得する。

◇到達目標

- (1) 高齢者における看護過程の考え方を理解する。
- (2) ゴードンによる機能的健康パターンと NANDAI を用いた老年期の看護過程の展開を理解する。
- (4) 患者事例に対して、個別またはグループで看護過程を展開できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	事例による看護過程の展開 高齢者における看護過程の概念	講義	
第2回	老年看護過程演習	演習	
第3回	老年看護過程演習	演習	
第4回	老年看護過程演習	演習	
第5回	老年看護過程演習	演習	
第6回	老年看護過程演習	演習	
第7回	老年看護過程演習	演習	
第8回	老年看護過程演習	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (30 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (60 %) ☒ その他 (出席・演習態度 10 %)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
参考図書	生活機能から見た老年看護過程、山田律子他、医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅰ-2 (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉 由美・矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

教育目的	分娩期・産褥期の産婦・褥婦・および新生児の社会的、心理的、身体的変化への適応を理解するとともに、産婦のセルフケア能力をアセスメントし、母子と家族へ健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を学ぶ。
授業概要	妊産褥婦・新生児期の特徴を理解し、母子を取り巻く環境をふまえた、看護の役割を習得する。

◇到達目標

1、分娩期・産褥期の産婦の社会的、心理的、身体的変化とそれらへの適応を理解する。
2、分娩期・産褥期の産婦のセルフケアや健康障害の予防、健康増進を促す看護援助を理解する。
3、分娩期・産褥期の母子の家族への看護援助についても理解できる。
4、新生児の子宮外生活への適応と看護援助について理解できる。
5、産婦・褥婦の親役割の習得過程及び親子関係形成への看護援助について理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	分娩期における看護（分娩の要素分娩経過 CTG の読み方 回旋）	講 義	稲葉 由美
第2回	分娩期における看護（分娩経過のアセスメント）	講 義	稲葉 由美
第3回	分娩期における看護（産婦と家族への援助・分娩時の看護の実際）	講 義	稲葉 由美
第4回	分娩の異常と看護（陣痛の異常 産道の異常 回旋異常 帝王切開胎児機能不全） 分娩時異常出血（子宮破裂 頸管裂傷 弛緩出血 子宮内反）	講 義	稲葉 由美
第5回	出生直後の新生児の看護・新生児蘇生法	講 義	矢追 裕子
第6回	産褥期における看護・早期新生児期における看護①	G W	矢追 裕子
第7回	産褥期における看護・早期新生児期における看護②	G W	矢追 裕子
第8回	産褥期における看護・早期新生児期における看護③	G W	矢追 裕子
第9回	帝王切開術後の褥婦の看護・帝王切開術で出生した児の看護	講 義	矢追 裕子
第10回	新生児の異常と看護（高ビリルビン血症・新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・ビタミンK欠乏症・低血糖・低出生体重児）	講 義	矢追 裕子
第11回	産褥期の異常と看護（子宮復古不全・産褥熱・乳腺炎・腎盂腎炎）	講 義	矢追 裕子
第12回	育児技術 母乳育児支援	講義・演習	稲葉 由美
第13回	育児技術 母乳育児支援	講義・演習	稲葉 由美
第14回	精神障害合併妊婦と家族の看護	講 義	稲葉 由美
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験+まとめ	稲葉 由美 矢追 裕子

令和 5 年度 看護学科 シラバス

評価方法	☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (10 %) ☒ 小テスト (%) ☒ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術
参考図書	メディックメディア 病気が見える vol10 産科 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 (第 3 版)
留意事項	事前学習 教科書を読んでおく。家族に自分が生まれたときの話を聞いてくる。自分の母子健康手帳、出産された方は子どもさんの母子健康手帳を探して見ておく。自分の臍帯の箱もあれば外書き及び中身を見ておく。 事前学習 (第 5 回～第 11 回) 別途提示する課題について該当部分の教科書を読み、第 5 回講義までにまとめて第 5 回講義で提出すること (PC 可・A4 11 ポイント)

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉 由美	2	1	後期	必修

◇講義概要

周産期にある母体の生理的变化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメントを行って看護過程を展開する。演習を通して周産期看護に必要な看護技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の各期の経過を理解できる
- (2) ウェルネスの視点で、母子とその家族のセルフケア能力のアセスメントを行い、
正常な経過をたどれるように看護を展開できる。
- (3) 周産期にある対象に援助を実施するための基本的な能力を養う。
(モデル人形を用いて沐浴ができる。)

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程① 母性アセスメント用紙の書き方 情報収集	グループワーク	
第2回	看護過程② 看護問題 事例の情報収集 看護過程の展開 アセスメント用紙 関連図 看護問題 看護計画を立案しグループでまとめる。	グループワーク	
第3回	妊産褥婦・新生児のバイタルサイン測定と新生児の沐浴	講義と演習	
第4回	沐浴演習 (妊婦・褥婦・新生児の健康診査・バイタルサイン測定)	演習	
第5回	看護過程③ 発表。	グループワーク	
第6回	看護過程④ 発表。	評価	
第7回	沐浴技術テスト	演習テスト	
第8回	沐浴技術テスト	演習テスト	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☒ 実技試験 (40 %) ☒ 演習評価 (20 %)
	☐ 小テスト (%) ☒ レポート (40 %) ☐ その他 (%)

教科書	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 ナーシンググラフィカ 母性看護技術
参考図書	医学書院 ウェルネスからみた 母性看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 メディックメディア 病気が見える vol10 産科
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人に対する看護過程の展開方法を学習する。
精神科看護技術の実践を学習する。

◇到達目標

主要な精神疾患・症状を有する患者の事例を通して、対象の健康レベルをアセスメントし必要な看護ケアの方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護視点過程 看護過程記録－相互作用を記録し振り返る方法 プロセスコードの活用 コミュニケーションスキル	講義	
第2回	ゴートンのアセスメントの枠組み 事例を通して情報の整理および情報の解釈により 健康逸脱の状況を見出す過程を学ぶ	講義	
第3回	アセスメント 情報を解釈する－アセスメントの視点 精神看護における看護過程	講義	
第4回	アセスメント結果のまとめ 精神看護のアセスメント	意見交換	
第5回	アセスメント結果の統合 看護問題を推論するまでの過程と方法	意見交換	
第6回	看護問題の抽出 看護計画の立案	意見交換	
第7回	看護過程まとめ 看護の実施と評価 SOAP 記録	意見交換	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	江川隆子 監訳 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針」 照林社 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
参考図書	全体的視点にもとづく精神看護過程 白石喜美子 武政 奈保子 医歯薬出版会社
留意事項	